

【運営方針5】効率的・効果的な運営

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】効率的な情報共有体制の確保と効率的な業務執行体制づくり					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
1 効率的な業務執行体制の確保	(1)実施率:100%	① 各種会議の開催(継続) 経営会議を毎週開催し、学校運営の基本方針や懸案事項に対する対応方針を決定し、職員会議や指導職員会議等において情報共有するとともに、必要に応じて教授会等で具体的な進め方を検討し、課題等に迅速に対応する。	・経営会議の開催(毎週)、職員会議・指導職員会・担任会議の開催(毎月)、教授会の開催等により、情報共有を図るとともに、必要な事項を協議した。 ・必要に応じて臨時経営会議を開催し、対応方針等を協議した。	C 実施率:100%	<ul style="list-style-type: none"> 課題の内容に応じて各会議を開催し、関係職員で、具体的に効率よく協議し、対応することができた。 臨時経営会議では、「農林業の人材育成に係るシンポジウム及び意見交換会」の開催等早急な対応を要する事項について協議した。
		② 職員間の情報共有(継続) 毎日の朝会において各学科の実習取組状況や学生の状況等を把握するとともに、農場・施設管理等の部門毎の運営部会の報告等により情報共有を図る。	・入校試験や行事等で朝会が開催できない場合を除き、毎日朝会を開催して情報の共有を図り、迅速な対応に務めた。また、年間計画に基づき部門毎の運営部会を開催し、農場や施設、行事の円滑な運営を図った。		
2 職員の資質向上に向けた取組の強化	(1)職場研修の実施回数:6回 (2)公開授業の参加・実施:各2回	① 職員の資質向上(継続) 各職員の資質向上に向けた研修会への参加や職場研修等を実施する。	・毎月の指導職員会議において「スキルアップ研修」を開催し、教職員のICT機器利用に係る基本ルール、日々の授業の組立て方、公開授業、成績評価等について研修した。	(1)・・・B 職場研修の実施回数:9回 (2)・・・C 公開授業の参加・実施(各2回)	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校の教育システムの現状や指導方法を学び、当校の指導職員の指導力向上を図った。 各指導職員は、高等学校や校内他学科の公開授業で見聞した指導方法等を、自らの講義・実習の改善に活用している。 農林水産省事業「指導力強化発展研修会」では、学生に寄り添った支援や指導方法等、メンター能力について学び、日ごろの講義・実習に生かしている。
		② 公開授業への参加及び開催(継続) 当校職員が、高等学校等の公開授業に参加して指導方法等を学ぶとともに、農大内でも公開授業を行って他の学科の講義や実習について研修し、資質向上を図る。	・当校職員が高校等の公開授業に2回参加し、授業の進め方、生徒とのコミュニケーション方法等、高等学校教員の指導方法を研修した。 ・校内での公開授業は、2つの学科で実施し、講義や実習の組立て方、教材の工夫、学生への接し方等を研修した。さらに事後に、アンケート調査を行って結果をとりまとめ、研修会を実施した。 ・農林水産省事業「指導力強化発展研修会」に職員2名が参加し、「農業メンター」に関して研修した。		
3 県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組み	(1)学校評価:C以上100% (2)学生の満足度:80%	① 学校評価の実施(継続) 当校の運営方針については、本県の重要施策や目標に適切に対応したものを策定し、「地域を支える担い手の育成・確保」に取り組むとともに、農林大学校運営評議委員会の評価に基づき取組内容等の改善を図る。	・5つの運営方針ごとに、評価項目、評価目標等を設定し、学校運営評議委員に検討していただいた。特に、昨年度に御指摘のあった項目を中心に改善するよう努めた。 ・有識者・関係団体等の第三者からなる「農林大学校機能強化検討会」を開催し、機能強化の方向について検討している。	(1)・・・B 学校評価:B評価40%、C評価60% (2)・・・C 学生の満足度:(「農大に入校して良かったか」の設問に対する学生の回答で、5段階評価中4以上の割合(評価基準 5:よく当てはまる、4:当てはまる、3:どちらとも言えない、2:あまり当てはまらない、1:当てはまらない) 【後期】 1学年 88% 2学年 79%	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の運営評議委員会で出された「林業経営学科の実習体制の充実」「農業関係機関・団体との連携」及び「農林業体験学習の充実」等に関する意見・要望等を受け、改善を図った。(第1回運営評議委員会の資料のとおり)。 今年度の学校運営は、本県の重要施策である「地域を支える担い手の育成」「食産業王国やまがたの実現(6次産業化の推進)」「やまがた森林(モリ)ノミクスの展開」等につながるよう、「副専攻基礎実習」の科目新設、「農業法人代表者の講話及び就職相談会」の開催等に取り組んだ。次年度以降も、職員会議や学生アンケート等により課題を抽出するとともに学校運営評議委員会の評価に基づき、教育計画の編成等を行う。 農林大学校機能強化方針に基づき、次年度以降、機能強化を進める。
		② 学生からの評価の実施(継続) 学生から学習及び生活等の満足度に関するアンケートを実施し、これに基づいた改善を実施する。	・全学生を対象として、日ごろの学習内容や寮生活、学生会活動、サークル活動等に関するアンケート調査を、前期(9月)と後期(1月)の2回実施した。		

<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営に必要な事項は、各種会議で効率的に協議し、迅速な対応ができた。また、学生の様子や寮生活の状態等を、朝会や担任会議を使って情報を共有しながら、学生指導に生かすことができた。 今年度の学校評価では、昨年度の学校運営評議委員会で指摘あった事項の改善に取り組むとともに、本県の重要施策等との整合性が高まるよう新たな評価項目を設定し、学校運営に取り組んだ。 日ごろの学生生活に関して、アンケート調査(前期・後期)のほか学生会との対話や学生の声回収箱による要望の聞き取りと問題点の把握を行い、学生が充実した農大生活を送れるように努めた。 	<p>評価</p> <p>C</p>
---	---------------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営のための各種会議が多いと感じる。→本校には7学科があり、授業のほか行事に関する連絡調整も多い。このため、内容を迅速に決定し、的確に伝達することが必要であることから、必要最小限のメンバーや全員参加による各種会議を設けて協議していくことが学校運営の効率化につながっている。 	<p>評価</p> <p>C</p>
--	---------------------------